

平成28年度全国及び岡山県学力・学習状況調査 結果と今後の取組について

津山市立西小学校

教育目標(めざす児童生徒像)

学び合う子 思いやる子 たくましい子を育てる。

今年度の指導の重点

- ・基礎学力の定着を図り、学ぶ意欲を育てる。
- ・お互いを認め、支え合う集団を育てる。
- ・ねばり強く最後までやりぬく子どもを育てる。

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)

【学力状況調査の結果】

全国(小学校)

- 国語A, 算数Bについては、県平均と比べると正答率が高い。
- 国語B, 算数Aについては、県平均と比べると正答率が低い。
- 国語Aでは「漢字の読み・書き」「ローマ字の読み・書き」の正答率が高い。
1-3 漢字を読む「省く」本校94.3%(全国81.0%) 8-3 ローマ字を読む「hyaku」本校62.9%(50.7%)
- 国語A, Bの「選択式」の設問についての、正答率が低い。
- 算数Aでは「小数や分数の計算」の正答率が高いが、「テープ図に表した割合」の正答率が低い。
- 算数A, Bの「数量や図形についての技能」については正答率が高い。
- 算数Bでは「記述式」の設問についての正答率が高い。

県(中学校)

- 国語は県平均を上回り、基礎・活用ともに改善された。観点別では「書く能力」が県平均より高い。
- 社会は県平均を下回ったが、活用については県平均を上回った。観点別では「社会的な思考・判断・表現」が改善された。
- 数学は県平均を上回り、基礎・活用ともに改善された。領域別では「量と測定」「図形」が県平均より高い。
- 理科は県平均を上回り、基礎・活用ともに改善された。観点別では「観察・実験の技能」が県平均より高い。

【学習状況調査の結果】

- 「テレビ等の視聴時間」が1時間以上の児童の割合は県平均より低いが、4時間以上の児童の割合が高い。「テレビゲーム等の時間」が1時間以上の割合は県平均より高い。
- 「1時間以上家庭学習をしている」「家で、自分で計画を立てて勉強している」児童の割合は県平均より高い。「学校の授業の復習をしている」児童の割合は、県平均より低い。
- 「平日30分以上読書をする」児童の割合は県平均より低く、全く読書をしないう児童の割合が高い。
- 「近所の人にあいさつをしている」と回答した割合は、県平均より高い。
- 「算数の勉強は好き」「新しい問題に出合ったとき、解いてみたいと思う」と回答した児童の割合が県平均より高い。
- 「自分にはよいところがあると思う」児童の割合が県平均より高い。
- 「地域の行事に参加している」「家の手伝いをしている」児童の割合が県平均より高い。

成果と課題

成果

- 朝学習や補充学習で下学年の復習を取り入れ、漢字や計算など基礎的な技能についての改善が見られた。
- 書くことの指導を継続し、たしかめテストと比較して無回答率が改善された。
- 算数科を中心に授業改善を進め、経年比較で算数Bの正答率が改善がされ、全国平均を上回った。
- 算数の勉強が好きな児童が増え、新しい問題にも前向きに取り組む児童が増えた。

課題

- 国語では「選択式」の設問についての正答率が低く、根拠を明らかにして説明する力をつけていく必要がある。
- 算数では「テープ図」や「数直線」など図を使って表すことが十分に定着していない。学校全体での系統的な指導が必要である。
- テレビ・ゲームなどの時間と比べて読書の時間が少なく、読書が好きな児童の割合も低い。読書の習慣化を図りたい。

課題に対応した改善方法

- 授業改善: 授業の中でペアやグループの活動を取り入れ、子どもたちが学び合いながら考えを深めたり広げたりすることができるようにする。
- 学習規律の徹底: チャイム同時スタート、同時終了を徹底し、学習の準備を整えて学習が始められるようにする。
- 基礎基本の定着: 朝学習や補充学習などで問題データベースを活用し、下学年の復習を取り入れる。直しを徹底することで基礎学力の定着を図る。漢字週間・計算週間を設け、集中的に漢字や計算に取り組む。
- 読書・作文: 読書指導を全校で進め、様々な読み物に触れたり、語彙を増やすための取組を行う。作文指導では、字数を決めたり、条件を付けたりするなど指導を工夫し、評価して返していく。
- 家庭との連携: 家庭学習の内容や量を工夫し、評価をして返し、習慣化を図る。基本的な生活習慣やノーメディアの取組を進める。

取組の検証方法及び検証時期(2学期末及び年度末)

- 小4・小5学力学習状況たしかめテスト(11月)や、小3学力検査(3学期)で検証する。
- 児童への学習アンケート(11月)を実施し、分析する。

各校の具体的な達成目標(数値目標等)

- 全国学力・学習状況調査において、各教科の平均正答率が全国平均を上回ることができる。
- 「国語が好き」「算数が好き」と回答する児童を80%以上にする。